

E 日本史問題

注意

1. 試験開始の指示があるまでこの問題冊子を開いてはいけません。
2. 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆またはHBの黒のシャープペンシルで記入することになっています。HBの黒鉛筆・消しゴムを忘れた人は監督に申し出てください。(万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。)
3. この問題冊子は12ページまでとなっています。試験開始後、ただちにページ数を確認してください。なお、問題番号はI・IIとなっています。
4. 解答用紙にはすでに受験番号が記入されていますので、出席票の受験番号が、あなたの受験票の番号であるかどうかを確認し、出席票の氏名欄に氏名のみを記入してください。なお、出席票は切り離さないでください。
5. 解答は解答用紙の指定された解答欄に記入し、その他の部分には何も書いてはいけません。
6. 解答用紙を折り曲げたり、破ったり、傷つけたりしないように注意してください。
7. この問題冊子は持ち帰ってください。

マーク・センス法についての注意

マーク・センス法とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方法です。

1. マークは、下記の記入例のようにHBの黒鉛筆で枠の中をぬり残さず濃くぬりつぶしてください。
2. 1つのマーク欄には1つしかマークしてはいけません。
3. 訂正する場合は消しゴムでよく消し、消しきずはきれいに取り除いてください。

マーク記入例：

A	1	2	3	4	5
	○	○	●	○	○

(3と解答する場合)

I . 次の文を読み、下記の設問 A・B に答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

「源平藤橘」と総称される源氏・平氏・藤原氏・橘氏の四姓は、有力な氏族を構成し、姓の代表的なものとして知られている。藤原氏は乙巳の変で活躍した中臣鎌足を始祖とする氏族である。孝徳天皇の即位後、鎌足は（イ）という役職に就き、皇太子の中大兄皇子らとともに、新政権を支えた。新政権は中国にならって年号を立て、646年には改新の詔を¹⁾発した。この鎌足の功により、その死の直前に天智天皇より賜った姓が「藤原」²⁾であった。

「橘」の由来は、天皇から（ロ）が姓に橘の一字を賜ったことによる。（ロ）は皇族の美努王との間で橘諸兄を生み、のちに鎌足の子の藤原不比等との間で光明子を生んだ。律令体制の整備が進むなかで、藤原氏は天皇の外戚としての地位を確立し、大伴氏などの伝統的な中央有力氏族の勢力は後退していった。不比等の子の武智麻呂、房前、宇合、麻呂の4子は、左大臣の長屋王³⁾を策謀によって自殺に追い込み、藤原氏の朝廷における地位を確立した。しかし、藤原4子が相次いで疫病に倒れると、橘諸兄政権が成立する。橘諸兄は聖武天皇と孝謙天皇の時代に政権の中枢を担ったが、平安中期以後、橘氏は中下級貴族⁴⁾として衰退していった。

9世紀に入ると、藤原氏は、房前を祖とする北家の藤原冬嗣が嵯峨天皇の信任を得て勢力を伸ばし、その子良房が清和天皇の外祖父として、臣下で初めての摂政になった。良房の地位を引き継いだ基経は天皇の政務を補佐する関白に就任し、北家の勢力は強大となった。その後、10世紀後半に左大臣の源高明を排斥した（ハ）といわれる政変ののち、北家の地位は不動のものとなり、北家から摂政・関白が次々に就任した。藤原道長⁵⁾は4人の娘を中宮などとし、30年間にわたり国政の中心で権勢をふるい、その子頼通とともに摂関政治の全盛期を築いた。

「平」と「源」は皇族が臣下に下る際に名乗った姓である。9世紀末から10世紀にかけて律令制がゆるみ、地方政治が大きく変化していくなか、朝廷から地方に派遣された中下級貴族の中には、そのまま土着して現地に残り、有力な武士となるものが現れた。10世紀初めには承平・天慶の乱⁶⁾と呼ばれる2つの内乱が発生し、朝廷の軍事力低下が明らかとなった。こうしたなかで組織化が進んだ地方武士の棟梁として大きな勢力を築いたのが、桓武天皇から出た桓武平氏と清和天皇から出た清和源氏であった。

11世紀後半、清和源氏の源頼義・義家父子は、陸奥の豪族安倍氏を滅ぼした（ニ）合戦などにより、東国に確固たる地位を築いた。奥羽地方では、義家の協力で一族の内紛を制圧した藤原清衡とその子孫が、奥州藤原氏⁷⁾として3代にわたって繁栄した。一方、桓

武平氏の流れで伊勢・伊賀付近を本拠とした平正盛は、白河上皇との関係を深め、院を警衛する（ホ）の武士として重用された。その子忠盛は鳥羽上皇の信任を得て殿上人となり、貴族の仲間入りをした。その平氏の勢力を飛躍的に伸ばしたのが、忠盛の子清盛であった。

鳥羽法皇の死去後に生じた保元の乱⁸⁾、平治の乱を経て、平清盛は1167年には太政大臣となり、一門はみな高位高官にのぼり、平氏が政治の実権を握った。平氏政権は圧倒的な軍事力を背景に、全盛期には500にのぼる荘園と日本全国の約半分の知行国を占取した。さらに清盛は娘（ヘ）を中宮として、天皇の外戚として威勢をふるった。平家一門の急速な台頭は旧来の貴族・寺社から強い反発を受け、その専横に対する不満が高まり、後白河法皇の皇子（ト）は、諸国に平氏打倒の令旨を発した。これに応じた源義仲や源頼朝らが挙兵し、5年にわたる争乱が続いた。清盛の死や畿内・西国の大飢饉で打撃を受けた平家一門は都を追われ、長門の壇の浦で滅亡した。

挙兵後の源頼朝は、鎌倉に本拠を構え、東国を中心とした新しい政治の仕組みを整えていった。東国武士団は源氏の嫡流である頼朝の下に結集し、平家一門の打倒後には、頼朝の支配権が西国にもおよび、武家政権としての鎌倉幕府が成立した。さらに奥州藤原氏も滅ぼして、幕府が全国的な支配体制を確立すると、清和源氏が武家の棟梁として名実ともに認められた。しかし、頼朝の死後、有力御家人間の争いが続かなかで、その系統は頼家、実朝の3代で断絶した。幕府内では桓武平氏の分流を称した北条氏が台頭し、執権政治が確立していった。

2回にわたる蒙古襲来後、北条氏の権力はさらに拡大し、なかでも家督を継ぐ得宗¹⁰⁾の勢力が強大となった。しかし、14世紀に入ると、北条氏の内紛や得宗の家臣である御内人の専横が権力争いの様相を呈し、得宗専制政治に対する反発が強まっていった。そして、後醍醐天皇を中心とした倒幕の動きに呼応して、清和源氏の棟梁の流れをくみ、幕府内でも北条氏と匹敵する家格を誇る足利高氏（のち尊氏）が六波羅探題¹¹⁾を滅ぼし、関東で挙兵した同じく清和源氏の流れをくむ（チ）が鎌倉を攻めて、鎌倉幕府は滅亡した。建武政権を経て、1338年に尊氏が征夷大將軍に任じられたが、その後も南北朝の内乱が続き、3代將軍義満¹²⁾の時代に全国的な統一政権としての室町幕府が確立した。

時代が下ると、姓は氏族を厳密に示すものではなくなり、織田信長や羽柴秀吉は、藤原氏や平氏を使い分けている。のちに秀吉は天皇から新たな姓「豊臣」を下賜された。藤原氏を称していた徳川家康も、清和源氏として、征夷大將軍に任じられたのである。

A. 文中の空所(イ)～(チ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部1)～12)にそれぞれ対応する次の問1～12に答えよ。

1. これとその時代に在位していた天皇の組み合わせとして正しいのはどれか。次のa～dから1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 延喜—醍醐天皇
- b. 延久—桓武天皇
- c. 寿永—高倉天皇
- d. 和銅—持統天皇

2. 『日本書紀』で伝えられるこの詔として正しくないのはどれか。次のa～d (原漢文)から1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 君をば則ち天とす、臣をば則ち地とす
- b. 戸籍・計帳・班田収授の法を造れ
- c. 食封を大夫より以上に賜ふこと
- d. 旧の賦役を罷めて、田の調を行へ

3. これに関する次の文 i・ii について、その記述の正誤の組み合わせとして正しいのはどれか。下記の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

- i. 天武天皇の孫で、文武天皇の妹を妻とした
- ii. 平城京の左京に広大な邸宅があった

- a. i : 正 ii : 正
- b. i : 正 ii : 誤
- c. i : 誤 ii : 正
- d. i : 誤 ii : 誤

4. この天皇の在位中の施策に関して述べた次の文 i～iv について、その記述が正しいものの組み合わせはどれか。次の a～d から1つ選び、その記号をマークせよ。

- i. 国分寺建立の詔が出された
- ii. 墾田永年私財法が制定された
- iii. 百万町歩開墾計画が立てられた
- iv. 養老律令が施行された

- a. i・ii
- b. i・iv
- c. ii・iii
- d. iii・iv

5. これに関する次の文の空所<あ>にあてはまる適当な語句を漢字3字でしるせ。

摂関政治は太政官を基盤に運営されたが、政務は先例や儀式を重視した。そこで貴族は先例を記録して子孫に伝えるため、盛んに日記を書き記した。道長の日記『御堂関白記』は、< あ >の余白に自筆で一日の記事が書かれている。

6. これに関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 平将門は新皇と称したが、清和源氏の源満仲によって鎮圧された
- b. 平将門は常陸を本拠地として、上野・下野・下総の国府を攻め落とした
- c. 藤原純友は伊予・讃岐・阿波を襲い、大宰府に攻め入った
- d. 藤原純友は一族で押領使の藤原秀郷によって鎮圧された

7. これが建立した寺院として正しくないのはどれか。次の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 中尊寺
- b. 無量光院
- c. 毛越寺
- d. 蓮華王院

8. これに関する次の表の空所①～④それぞれにあてはまる語句の組み合わせとして正しいのはどれか。下記の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

天皇方	後白河	②	清盛	④
	<天皇家>	<藤原氏>	<平氏>	<源氏>
上皇方	①	頼長	③	為義

- a. ①白河 ②信頼 ③重盛 ④頼政
- b. ①白河 ②忠通 ③忠正 ④義朝
- c. ①崇徳 ②信頼 ③重盛 ④頼政
- d. ①崇徳 ②忠通 ③忠正 ④義朝

9. これに関する次の出来事 i～iii について、もっとも古いものから年代順に並んでいる組み合わせはどれか。下記の a～f から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- i. 守護・地頭を置く権限を朝廷から認められた
- ii. 頼朝が征夷大將軍に任じられた
- iii. 和田義盛を別当とする侍所を設置した

- a. i－ii－iii
- b. i－iii－ii
- c. ii－i－iii
- d. ii－iii－i
- e. iii－i－ii
- f. iii－ii－i

10. これに関する次の文 i・ii について、その記述の正誤の組み合わせとして正しいのはどれか。下記の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

- i. 得宗貞時の外祖父の安達泰盛は、御内人の長崎高資に滅ぼされた
- ii. 得宗は、第 3 代執権泰時が徳宗と号したことに由来するといわれている

- a. i : 正 ii : 正
- b. i : 正 ii : 誤
- c. i : 誤 ii : 正
- d. i : 誤 ii : 誤

11. 次の史料は、これに就いていた北条重時に宛てた当時の執権による御成敗式目制定の趣旨を述べた書状の一部である（史料は一部改変してある）。この書状の空所〈い〉・〈う〉それぞれにあてはまる語句の組み合わせとして正しいのはどれか。下記の a～d から 1 つ選び、その記号をマークせよ。

さてこの式目をつくれ候事は、なにを本説^{ほんせつ}として注し載せらるゝの由^{よし}、人さだめて謗難^{ぼうなん}を加ふる事候か。ま事にさせる本文^{こと}にすがりたる事候はねども、たゞ〈い〉のおすところを記され候者也。……。これによりて、京都の御沙汰^{ごきた}、〈う〉のおきて、聊^{いささか}もあらたまるべきにあらず候也。

- a. 〈い〉：どうり（道理） 〈う〉：公家
b. 〈い〉：武家 〈う〉：公家
c. 〈い〉：どうり（道理） 〈う〉：律令
d. 〈い〉：武家 〈う〉：律令
12. これに関する次の文の空所〈え〉にあてはまる適当な語句を漢字 4 字でしるせ。

足利義満は朝廷の高位に就き、武家のみならず、公家に対する支配者としての地位も獲得し、のちには僧侶まで含めた聖俗の支配権を持つようになった。その死後、朝廷は〈え〉の号を贈ろうとしたが、4代將軍義持はそれを辞退し、義満の室町王権としての地位が継承されることはなかった。

Ⅱ. 次の文1～5を読み、下記の設問A・Bに答えよ。解答は解答用紙の所定欄にしるせ。

1. 当初は豊かであった江戸幕府の財政は、17世紀後半に危機的状況におちいった。そこで、5代将軍徳川綱吉は、財政立て直しなどを図るため、勘定吟味役（イ）の意見を採用し、質を落とした小判を1695年に発行させた。もっとも、この貨幣改鑄によって貨幣の価値が低下し、物価の騰貴が生じたことなどから、新井白石は、以前の質に戻した小判を1714年に発行させた。その後、8代将軍徳川吉宗の時代にも、貨幣の改鑄は行われた。米価の調節に尽力した徳川吉宗は、金貨・銀貨の質を悪化させて米価を相対的に引き上げるため、（ロ）金銀を発行させた。

以上のように、江戸時代には、たびたび貨幣の改鑄が行われ、江戸時代の間様々な規格・品質の小判が発行された。

2. 貨幣には、金額が表示されて個数を数えて使用する計数貨幣と、重さをはかって使用する（ハ）貨幣とがある。江戸時代に発行された貨幣のうち、小判や一分金などの金貨は計数貨幣であった。これに対して、銀貨については、江戸時代初期から発行されていた丁銀や豆板銀などは、（ハ）貨幣であった。田沼意次は、額面に金貨の単位のあらわされた計数銀貨である良質の（ニ）銀を1772年に発行するなど、貨幣制度の一本化を試みた。

3. 明治政府は、戊辰戦争の戦費などにあてるため、太政官札や民部省札を発行した。しかし、それらを大量に発行したことや、藩札やにせ金⁵⁾が流通したことなどにより、通貨の混乱が生じた。そこで、明治政府は、1871年に新貨条例⁶⁾を公布した。翌1872年には、太政官札などと引き換えるため、新紙幣（明治通宝札）を発行した。同じく1872年、民間の個別の銀行が兌換銀行券を発行できるようにするため、国立銀行条例が制定され、翌1873年、最初の国立銀行である第一国立銀行が設立された。もっとも、国立銀行の当初の設立は4行にとどまった。その後、1876年に国立銀行条例が改正されると、国立銀行は急増した。華族や士族が主に（ホ）で出資した国立銀行が、続々と設立された。1879年に設立が打ち切られるまでに153の国立銀行が設立された。

1876年の国立銀行条例改正以後、国立銀行券が大量に発行されたことや、（ヘ）の戦費にあてるために明治政府が多額の不換紙幣を発行したことなどにより、紙幣の価値が低下し、激しいインフレーションが発生した。明治十四年の政変後に大蔵卿に就任した（ト）は、増税と徹底した歳出削減を行うことで紙幣の流通量を減らし、紙幣

の価値を上げようとした。1882年には中央銀行として日本銀行が設立され、翌1883年には国立銀行条例が改正され、国立銀行は銀行券の発行権を失った。日本銀行は、紙幣の価値が回復したと判断された1885年から銀兌換の銀行券の発行を開始した。
7)

4. 1897年に制定された貨幣法では、日清戦争で獲得した賠償金の一部を準備金として、金本位制を確立した。貨幣法制定と同じ年に、日本銀行券は金貨兌換券に改められた。もともと、その後、金本位制は変遷をたどる。

第一次世界大戦が行われていた1917年、政府は金輸出を禁止し、金本位制を停止した。大戦後、欧米諸国が金本位制に復帰する一方で、日本では、関東大震災や金融恐慌などの影響もあり、金本位制への復帰が遅れた。日本では、1930年に金輸出解禁（金解禁）⁸⁾が実施された。しかし、1917年当時の為替相場に基づいて金解禁が実施されたため実質的に円高となったことや、世界恐慌が発生していたことなどから、日本経済は深刻な恐慌におちいった。その後、（チ）内閣の下で、金輸出の再禁止が行われ、さらに、日本銀行券の金兌換も停止された。これにより、政府が通貨供給量を調節できる（リ）制度へと移行した。

5. 第二次世界大戦後、極端な物不足や通貨の増発により、激しいインフレーションが発生した。1946年、政府は金融緊急措置令を出し、預金封鎖や新円切り替えなどを行って通貨流通量を減らそうとした。しかし、その効果は一時的であった。基幹産業を復興させるための金融機関として復興金融金庫が1947年に設立されると、復興金融金庫から多額の資金が供給されたことなどにより、インフレーションがさらに進行した。1948年、GHQは、日本政府に対し、経済安定九原則の実行を指令した。翌年派遣されて来日したドッジの要求を受け、日本政府は、赤字をゆるさない予算を作成し、さらに、為替相場¹⁰⁾を1ドル=360円の単一為替相場に設定して輸出振興をはかった。これらや税制改革¹¹⁾によって、インフレーションは収束したものの、デフレが発生し、日本経済は深刻な不況におちいった。

A. 文中の空所(イ)～(リ)それぞれにあてはまる適当な語句をしるせ。

B. 文中の下線部 1)～11)にそれぞれ対応する次の問 1～11に答えよ。

1. この理由に関する記述として正しくないのはどれか。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 江戸で大火が発生し、江戸城や市街の再建のために多額の費用を要した
- b. 金銀の産出量が減少し、鉱山収入が減少した
- c. 護国寺の建立など、寺社の造営のために多額の費用を要した
- d. 富士山大噴火による被害が発生し、復興のために多額の費用を要した

2. この人物が著した著作物として正しくないのはどれか。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 折たく柴の記
- b. 経済録
- c. 西洋紀聞
- d. 読史余論

3. これに関する次の i～iii について、金の含有量の多い順に並んでいる組み合わせはどれか。下記の a～f から 1つ選び、その記号をマークせよ。

- i. 慶長小判
 - ii. 文政小判
 - iii. 万延小判
- a. i－ii－iii b. i－iii－ii c. ii－i－iii
d. ii－iii－i e. iii－i－ii f. iii－ii－i

4. この人物に関する記述として正しいのはどれか。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 江戸の有力商人を勘定所御用達に登用した
- b. 株仲間の解散を命じた
- c. 近藤重蔵や最上徳内らに千島を調査させ、択捉島に「大日本恵登呂府」の標柱を立てさせた
- d. 新田開発を積極的に行い、印旛沼・手賀沼の干拓に着手した

5. これの発行を建議した人物で、五箇条の誓文の起草も行ったのは誰か。次の a～d から 1つ選び、その記号をマークせよ。

- a. 大久保利通 b. 木戸孝允 c. 福岡孝弟 d. 由利公正

【以下余白】

